



弘前アップル RC 週報

会長：山本周平 幹事：菊池 勲

2013/03/11

第 38 回例会

弘前アップル RC 事務所

〒036-8086 青森県弘前市田園 1-21-1 アイエーネットワーク内

3月11日、東日本大震災から2年。

例会前に黙祷を捧げました。

「私の履歴書」

内部卓話：渡邊 潔 会員



自分自身の話ってあんまりすることはないし、私自身得意ではないので、人様に自分の話はしないのです。人の話を聞くのは得意なんです。

本日は大体4つくらいの時期に分けてお話をします。

facebookにあるように、私が生まれたのは北海道です。美唄（びばい）で生まれ、育ったのは岩見沢です。母が23歳の時に私が生まれたんですね。父は30代後半だったらしいです。「らしい」というのは、私は父親の顔を知りません。私が3歳の時に亡くなって



おります。ですから、一切父親の顔というのは、あとでちょっとお話ししますが、大学生になるまで、一切どんな顔をしているのか知りません。これは私の今の人格に大きく影響を与えていると思うのですが。

そのあと、北海道から愛知県の豊田市に行きました。なぜ豊田に行ったのかというと、母の兄弟が2人、豊田自動車に勤めていてそちらを頼っていきました。実際には私が3歳の頃ですから、当時青函連絡船に乗ったのは覚えています。青函連絡船に乗って、母親と一緒にいたのですが、だれかとお話をして遊んでもらっていた時に迷子になったという記憶があります。正しいかどうかはわかりませんが・・・いろんな記憶があって、父親の葬儀の記憶とか火葬場で焼いた骨を出している記憶とか鮮明に残っているのですが、それが事実なのか、あとから自分の中でできてきた夢のようなものなのか識別がつかない状態になっています。そこで母と2人で6歳くらいまで暮らしていたのかな？そこで母が再婚します。ですから私は戸籍上兄弟が3人いるのですが、私は養子ということになります。6歳ころに結婚したんだと思うのですが、それから6歳下の妹、8歳下の弟ができます。

ここで妹弟の話をしませんが、妹は私と同じ仕事をしています。教員です。養護教諭を三重県でしています。旦那さんも教員です。ただ、旦那さんは私より年が上です。なかなか会うことはないのですが、お互いにあった場

合何と呼んだらいいのかわからないという、そういうところがあります（笑）

で、母が再婚すると、父親ができるので、私も6歳くらいだったので単純にうれしかったのですが、だんだん現実的な部分を受け止めるようになってきて、妹が生まれ弟が生まれれば、義理の父も人間ですから、私よりも妹や弟がかわいい訳です。そういうことにだんだん接し、これが私の今の人格形成に影響を与えたと思うのですが、そういうなかで育ってきています。だいたい小学校くらいまでそういう雰囲気ですかね。

こう見えても私は子供の頃呼吸器が非常に弱くて、小児喘息じゃないかと診断された時期もありまして、今はあまりどうってことないんですが、風邪をこじらせるとたまに呼吸器がゼロゼロするとか、咳がかなり長引くということがあります。

たぶん父親の存在が今まで自分の中になかったのも影響していると思うんですけど、気持ちがあまり強くはないというところがあります。そういうのも子供のころに非常に強かったなあ。今でもそこらへんのところっていうのはある種のコンプレックスなんじゃないかな、自分の中に残っているんですけども。

ただ、ちょうど母が再婚して妹ができるちょっと前まで義理の父親の実家にいて育ったんですけども、そこから引っ越してちょうど山を切り開いた新興住宅地、今でもそこに弟と両親が住んでいるんですけども、そこに住ん



でました。もうそういう山のところを切り崩していますから、岩とかなにかがあって隙間があって、子供の頃って本当に男の子って馬鹿なんですけれども、基地をつくって遊んでそこに何か隠してみるとか、そういうことをずいぶんやって遊んでいました。

まあ要するに外をかけ回って遊んでいる。夏休み中でも家をピュッと出るとお昼ご飯食べに戻ってくるぐらいで、あとはもうとにかく一日中外で遊んでいるというような感覚ですね。そういうようなところで育ちました。

運動能力は非常に中途半端でして、全然できないなら諦めつくんですけれど、そこそこできるもんですから手を出さずなんですけれども、そんなに上手くならないという。

しかも球技があまり得意ではないというところがあるんです。で、我々の子供の頃って野球しかないんですよ。野球って球技で、あまり得意でないもんですから、そんなにみんなと遊んでいてもそんなに楽しくなかったという感覚は非常に強いですね。

ただ小学校の時って例えば陸上競技なんかでも地区か、市の大会ですかね。愛知県の方ですと小学校ごとに選手集めて、それでしばらく練習して出るといって競技大会みたいなのがあって、それでも走らせても大体まあ遅くはないんですけど、2番手3番手なんですよ。

それこそ高飛びやっても2番手3番手ぐらいで、どれやってもそれぐらいで決して1位になれないぐらいの感覚のところになっています。

ですから3種競技っていう競技ですかね。走るのと飛ぶのと砲丸投げかな？ そんな競技があって、それはまあどれも2番手ぐらいですからどうにかなったんですけど、

サッカーなんかも、当時はまだいまそんなに今みたいなサッカーブームではなかったんですが、小学校でサッカーをやっていました。でもそんなに上手くはないですね。

当時の子供の頃の夢っていうのは、私はやっぱり世代的に「鉄腕アトム」とか「鉄人28号」とか「ジャングル大帝レオ」とかそういう世代なもんですから、そっちの方面にかなり影響を受けて、特に「鉄腕アトム」ってものすごい影響うけてまして、やっぱり小さい頃の夢として科学者になりたいという夢。同じ世代の人は誰も一旦は思ったのではないかと思えますけれども、「鉄腕アトム」を造りたいとか「鉄人28号」を造りたいとかそういう感覚なんだと思います。小学校くらいまでそういうふうにご経過していました。

小学校は歩いて30分くらい。本当に田舎なんですね。途中、桑の実が季節になるとありまして。それを取って食べたりとかして、子供の足で歩いて30分くらいかかる小学校にみんな歩いて通っていました。

それで非常に大きな学校だったんですけども、小学校5年の時、あまりにも大きくなりすぎたもんですから学校が分かれることになりまして、近所に学校ができたんですね。

でも、あと一年あるからっていうんで私はどっちに行くかを選ばされる地区



だったもんですから選ばされたんですけども、そこで何人かの友達とは学校が変わってしまった最後の1年間の思い出もあります。そのような小学校時代で過ごしてきました。

中学校に入りまして、先程も申し上げた通り私は球技が得意ではないので、なにを始めたかって剣道部にはいったんですね。

剣道部はボールを一切使いませんから。たまたま一つ上の近所の人でよく遊んでくれた人がいたんです。その人も剣道部にはいってそれもあったと思うんですが、剣道部に入りました。結局、みんな剣道をはじめるのは初めてで、中には小学校からやってるのも一人二人いましたけれど、自分自身がスポーツに中でそんなに上手になれなかったっていうコンプレックスがあるもんですから、一生懸命練習しました。当時は私の世代っていうのは市内では上手くて団体戦で優勝したり個人戦で優勝したりということが結構あった学年だったんですけども、楽しい時代を過ごしたかなあということですね。

高校時代にこのあと入るんですけども、豊田市の隣の岡崎市というのがあって、その高校にはいったんですけども、電車で通っていたんですけども、ただ朝あまり強くないもんですからやめとけばよかったんですけども、1本乗り遅れると必ず遅刻なんです。1時間は間に合わないというようなところだったんですけども。

ただ非常にいい学校で、私鉄が下の方にありまして、そこからず〜っと坂を

トボトボトボトボ歩いていく丘の上にある学校で、未だに印象に残っているのが途中にお豆腐屋さんがあるんですよ。私が学校に上がっていくとおからやお豆腐つくってて、湯気がいつも上がっていてすごくいい匂いがしているっていう記憶があったんですけども。

で、最初剣道部に入ろうかなと思っていたんですけども、見にいっただけです。どうしようかなあ〜ともしたら、私「渡邊」ですから名簿番号で一番最後なんです。

だいたい高校1年生の時は名簿順で並ばされますから、隣は女子なんです。それで隣にませた女の子がいて、もう応援団に素敵な男の人がいると。先輩で。それでそっちの方にその子が出入りし始めていて、もう4月ですよ。それで「応援団にはいらない？」って隣だったから勧められて「う〜ん」って断りきれずに入ってしまったっていう（笑）

それが5人、10人もいればいいんですけど、同じ学年3人なんです。ひとつ上の人は一人。弱小なんです。途中で一つ上の人は同じ学年になっちゃいましたけど（笑）同じ学年が3人から4人になってしまいました。（笑）それでまあずっと応援団をやっていました。

ただ、別に電車で通ってたからじゃないんでしょうけれども、高校時代ですから受験勉強しなきゃなんですけれども、愛知県ってあまりストーブ焚かないんです。こたつかなんかに入りながらやってると寝ちゃうんですね。



勉強するつもりで電気つけてこたつ入ってますけど、突っ伏して寝ちゃうわけです。
でも、近所の人は見ているわけですよ。

「渡邊さんとこの息子さんいつも朝まで電気つけて勉強してる」っていう噂になって（笑）
大半寝ていてふっと気がつく朝になっという状態だったんですけれども。近所では「非常に勉強する息子」だって評判だったんですが、実際にはそうでもなかったっていうところがありました。

それで前もちらっとある部分でお話したんですけれども、私の世代っていうのは昔の一期校・二期校の世代でして共通一次とかよりも前なんですね。そういう世代でしてやはり私は北海道に生まれたので、北大に入りたかったんですね。

大学もそうなんですけど何に憧れたかって「恵迪寮（けいてきりょう）」っていう寮が北大にあるらしいんですけれども、そこに入りたかったんです。そこで集団生活に憧れがあったんですけれども。

でまあ北大受けて二期校どうしようかと思って、元々生物の遺伝学もやりたかったもんですから、遺伝やれるとこって探してみると、当時、愛媛大学と私最初読めなかったんですけれども、この間地名で読めないのナンバーワンになっていた「弘前」ですね。ずっと受験するちょっと前まで「ひろまえ」だと思っていたんですけれども。この二つだというところで、どっちにしようかなあ～と思ってたんですけれども、

北のほうがいいなあって弘前を受けて。でまあ、弘大を出たってことは北大を落ちたわけですから（笑）それで寮に入ったんですね。で、やっぱりその「寮の生活をしてみたい」という気持ちがあったと思うんですけど。

当時私たちの頃って、私より年上の方はわかると思うんですけども、ちょうど学生運動が終わって三無主義と呼ばれて全然子供達が「無気力」であり、「無感動」であり、「無責任」でありとそう言われた時代の人間なものですから、でもどっか自分の中でその古い感覚っていうのがあって、自治会活動も非常に憧れておりまして、寮にはいつてみんなで集団生活をするともに、自治会の活動もやって。

結局、北鷹寮（ほくおうりょう）なんですけれども、これも変な話なんですけれども断ろうとおもったんですけれども断りきれずに寮長にまでやってしまったっていう（笑）何回か今逃げないとまずいなっていうところで「おれ辞めるから」って言ったんですけれども、説得されると断れなくなるもんですから（笑）

やめないできたら残ったのが一人しかいないので私が寮長ということになってました。

必要最小限しか学校にいなかったです。ひどい時で一週間太陽を見ない時っていうのがありまして、ほとんど不登校と同じなんですけれども。（笑）
そういう時期がありました。でもさすがに「これはいかん！」というふうに思いまして生活を自分で直しましたけれども。でもこれ未だに夢に出てきま



す。学校にずっと行かなくて単位とれなくてっていうのをたまにヒュッと夢にでてくることがあるんですけども。

あともう一つはこの寮は二人一部屋だったもんですから、先輩の影響で1年弱やりましたけれども、ラグビー部に入ってまして。ただ雪国の人っていうのはラグビーの経験が体育とかであったりする人が多かったんですけども、私は愛知県で育ったので一切やったことがない。でもこれも誘われて断りきれないで入ってしまったのでやっています。

普通私この体格だとフォワードやらないんですけども、人数たりないから「おまえフォワードな」って言われて。ラグビーご存知の方あれですけども、前列3人いますけれども、その間に次の列2人いるんですね。そこのこのロックっていうのを同室のすごい体のでっかい先輩と一緒にやらされました。

ルールもよくわからないまま、下敷きになりながら「これ死ぬかもしれない」と思ったことが何回かありました(笑)。

でも自治会のほうがかなり忙しくなってきた、途中でやめてしまったんですけども。

ちょうど寮の自治会の時、隣に女子寮があるんですけども、その同じ時に寮長やったのが今の国会議員の高橋千鶴子さんが同級生で、私が北鷹寮の寮長やっていたとき女子寮の寮長でいたんですけども。何年か前に会って、あの人は未だに頑張ってるんですけども。

れども。あとは私の一つ前の期に、寮長やったのが同い年でその彼は今どこでなにしてるのかわかりませんが、前の青森市の市議をやってたんですけども。

こんな中で、さっき科学者になりたいっていったのが、お医者さんになりたいなあと思ひ、さらに理科の教師になりたい。これはさきほどお話した通り、受験勉強せずに寝てばかりいたところから段々現実的に見ていくとそういう方向になっていったところなんですけれども。

ただ教師になりたいと思ったのは、普通、素晴らしい先生に出会ってそうになりたいからっていうのでなる人が多いんですけども私は逆でして。私がひねくれていたのか小・中・高と教員が嫌いだったんですね。ですから「おれがなってる！」という感覚があったのです。

で、先生方を見ていて中途半端なことしているとムカッとくるのがそれが未だにあるからなんだと思います。だから私は学校では嫌われています(笑)だからどうしてもそういう感覚は未だにあるんですね。

それでまあ大学卒業しまして、千葉県で3校、9年間教員をやりました。そして青森に来て1校目が9年おりました。千葉でも実は今も思うにずっと教育相談なんですけれども4年目にたまたま何かの研修会に行った時に、そういう不登校に関するカウンセリングとかその対応の講義を受けました。その時は「ああそうなんだ」って思ったくらいだったんですけども、自分



が担任持つようになってからクラスでなかなか学校に来ない女の子がひとりいて。別に暗いわけでも、遊び回るわけでもなんでもないんですけれども、でもうまく対応ができなくてその子のことが理解できなかつたんだけど、なんとなく引っかかってて。

そのあと千葉県からこの青森に来て、それで最初の9年間いた学校のうちの2年目ですね。授業で教えてた自分の学年より、私が担任持てたのはその学年より一つ上の学年の女の子が不登校で来ないんですね。学年も随分それに対応してそれがうまくいかないことがあって、そこで私がどういうわけかやることになってまして。ただなにも知識もなにもないところからいろいろ勉強し始めて、その子と対応してというところから始まって。

その最初の学校9年目になるから10年なると転勤しなきゃいけないやと思って9年目にじゃあ書いておこうかなと思って、転勤って書いたら総合学校教育センターに行くことになりまして、学校からしばらく遠ざかることになりました。

ただその最初学校でやっていたときっていうのは、教育相談に入りかけた自分から必要に迫られて、とその時は思っていたんですけれども、ず〜と追っていくと結局自分からそっちの方へいっている感覚はあるんですね。

いろんな教員でも不登校の子がみんな見ているんですがそのところに共鳴する人間っていうのは全員が共鳴するわけじゃないですから。

共鳴するってことはこっちになにかあるわけですから。それで不登校の子供

達のためと思って、教育相談の道にはいったわけです。

そのあと教育センターの方に入りまして、まあ3年もすれば出てこれるだろうと思ったら7年もいることになりました。7年も現場を離れました。

最初はその中ですごく悩みましたけれども、「なんでこんなところに来たんだ」って。

でも考えても仕方ないなって一生懸命やって、その時に自分で思ったのは、相談にくる子供と親もいたり、先生方に対して研修もするんですけれども、その研修自体も「後ろに子供達がいるんだ」ということを常に意識してやると、なんかこう学校にいるような感覚でやれるもんですから非常にそういう点では自分をそういう感覚にもってやってやりました。さらに教育相談の道にず〜と入っていく形になりました。

そこであるときふっと気づいたのは、最初の3年ぐらいはいろんなことを勉強して、不登校の子供達のためと思ってカウンセリングみたいなことをしていたんですけれども、なかなか上手くいかないんですね。ところがある時ふと気づいたんですよ。相談室にいて、自分もいるんですよ。子供もいるんですよ。私は子供しか見てなかった。でも自分自身も子供の反応とか何か心に動かされたり、反応があるわけですから常に両方見なければ良い相談はできないということに気づきまして、必ず相手と対面して話をしているときは相手を見るのとともに、その相手の反応で自分はどういうふうな状態にある



のかというのを常に見るようになりました。

そしたらすこ～しづつ上手くいくようになってきたんですね。そこで面白いもんで自分を見るようになるといういろんな気づきが出てきます。

例えば、私はいまだにカウンセリング学会所属しているんですけども、今は行っていませんが前は年にいっぺん必ず研修会にいったり勉強してきてたんですけども、そこでやってて例えばいろんな心理療法を勉強するとそこでず～っとやって子供達のこと意識しながらやるんですけど、ふっと「あ、そっか。こういうようなところって自分のこういうところと関係があるな」っていうことに気づいたんです。自分達の気づきがどんどん増えていきました。その中で自分自身の状態はなんでこういうところがあるのかなあっていうのを考えたところ、たとえば父親が亡くなって、私は父親の顔は知らない。母は再婚したのですべての過去の写真は父親のところから切り取られてるんです。だから一切私は子供の頃父の顔は見たことがない。ただ、大学生になって弘前に来た時に、私は先ほど申し上げたとおり美唄にいまに親戚がいるんですけども、もう亡くなりましたがじいさん、ばあさんがいたんですね。どこでどういうふうに聞きつけたかはわからないんですけども、私が弘前にいるということを知りまして、向こうから連絡をとってきて大学生になって初めて会いに行って、父親のお墓にいき、そこで初めて父の顔を写真として見ると。

「ああ、こういう顔をしているんだ」というところがありまして、そういうようなところでも多分自分自身の中のいろいろな部分に影響をあたえる。

で、子供の頃ってすごくそれが自分の嫌な部分に影響を与えている感じがしましたけれども、やっぱり先ほど申し上げたように自分に対しての気づきが増えてくるのはそれが、マイナスの部分でもあるけれどプラスの部分としても多分あるだろうということに気づきました。さっきの気持ちが弱いかっていろんな部分があったりするわけですけども、それはそれで逆に言えば優しさだとか人に対する痛みを感じるとか、そういうところにも繋がるかなあと思ったりもしまして未だにやっています。

40歳になるあたり、ちょうどこれがひとつ私の大きな超えるところでした、先ほど申し上げたとおり私が3歳のときに父が死んでますから、だいたい40ぐらいで死んでるんですね。やっぱり40を私が迎えたときにはものすごく感慨深かったです。父が生きたよりも先にこれたというところがあって。そういうところで40過ぎてから、じゃあ教員として何を軸にしようかっていうんでやっぱりこの教育相談ですね。要するにそこのところを軸としてやっていくと。これはいろんな不登校だとか発達障害の子供だとかもそうですし、普通のそうじゃない子供達のいろいろな個人個人のいろんな部分をきちっと寄り添っていけるような教育ができるという部分では非常に良いかなあと思っているわけなんですけれども。



だから私は決してクールなのではなくって、よく言われるんですけれども自己防衛が強いんですね。要するにダークと今まで生きてきた中において自分を押し込め込んでしまう。出すのが怖かったり苦手だったりするっていうところがあってそれが未だにこの年になっても抜けきれなくてそれが出ないからクールに見えたり近寄りがたく見えたりという感じがあるようです。

で、そこは治らないみたいですね。まあしょうがないかなって思ってるんですけども。

昔は自分を好きになんかきやいけないなって思ったんですけれども、最近は好きにならなくてもいいって、こんな自分でもまあいいかって思って生きていくしかないかなあというふうには思っております。

これが一公務員としての私の、まだしゃべれない部分もあったんですけれども、もしなにかこういうところがもうちょっと聞きたいとかっていうことがあれば個人的にお話をします。

ただ、くら〜い話がでできますので、それを覚悟してお聞きいただければと思います。

以上です。



会長挨拶 荒田俊治 副会長

今日は特別な日でもありましたけれども、渡邊先生の話を知って、誰でも生まれてからあっちいたりこっちいたりしながら、来てるわけですが、ただ、渡邊先生の場合はその時その時

のことを噛み締めながら送ってきてる人生なんだなと感じました。

だからいろんなことをイベントずつお話ししたら1時間2時間十分みんな楽しめるんじゃないかな、ということと同時に、僕らも自分に置き換えて、なんて自分は軽薄なんだなということも出てくるかもしれない。そういうようなことというのを感じました。

それくらい先生の話というのは色々な時を噛み締めてるという風を感じました。



ニコニコ報告

山田順子会員：ボスおかえりなさい！お土産おいしいです。2年前の今日は暗闇の中サーシャと震えていました。今も不自由な生活を強いられている方々に一日も早い春が来ることを願ってやみません。

関場慶博会員：フィリピンより無事帰ってきました。時差は1時間ですが、寒暖差が35℃にはちょっと参りました。セブのロータリアンは皆さんとても優しく親切でした。

田中裕介会員：昨日八戸の種差海岸でHuman Band という東日本大震災を追悼するイベントに参加してきました。被災して亡くなった方が見たくとも見れない「今日」を生きていることを心に留めこれからも一日一生で頑張っていきます。

坂本大輔会員：皆さま、お久しぶりで。Facebookの調子が悪く、全く情報



についていけません。ニコニコの紙も変わり、ホワイトボードにはボスの写真が備えられていて…。長い時間留守をしていたんですね(笑)

荒田俊治会員：入院していた娘が退院できました。良かったです。

三浦順子会員：東日本大震災でお亡くなりになった方に深く哀悼の意を表します。ボスお帰りなさい。大役お疲れ様でした。

板澤雅人会員：2年前と同じく大変寒い3月11日ですね。色々なころを風化させないように、今一度じっくりと再考したいとおもいます。

吉澤葉子会員：3・11に黙祷いたします。今日は渡邊先生の卓話楽しみにしてきました。気付いて良い言葉ですね。BOSS インド&フィリピンお疲れ様でした！

岡本薫会員：ボス、お帰りなさい！フィリピン地区大会お疲れ様でした。会長代理としての大役はアップルロータリーとしても大変名誉なことです。渡邊さんの卓話楽しみです。

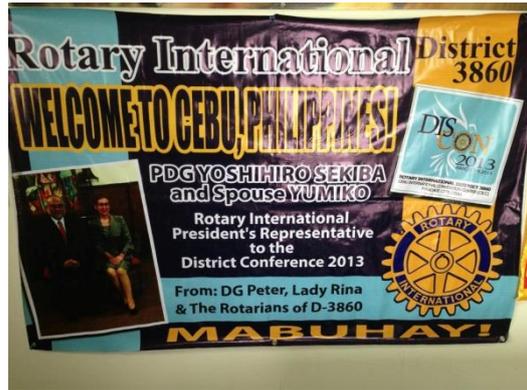
渡邊潔会員：寺山修司、ケネス・アンガー展に行ってきました。新鮮な感覚でした。



フィリピン報告 関場会員

フィリピンのセブ島にて第3860地区の地区大会に田中作治会長の代理として

参加され、ロータリーの現状などをスピーチされました。フィリピンと青森の気温差35℃の中、温かい歓迎を受け、感動されたようです。



理事会報告

1. ホームページの作成費用について
2. お花見例会日程について
3. 中間決算報告・決算見込
4. 管理運営委員会の規約改正について
5. 委員会運営・委員会役割について
6. 地区補助金について
7. 拡大委員会の日程について
8. 次年度ガバナー訪問日程について
9. 次年度の理事会について



出席報告

第38回例会

出席者数 14名

出席率 50%

修正出席率 60%



【メイクアップ】

3月7日、8日、9日

国際ロータリー第3860地区

地区大会2013

関場会員

■例会予定

3月18日(月) E例会

3月25日(月) D例会(担当:ロータリー財団委員会)

4月1日(月) 内部卓話(齊藤貴博会員)

4月8日(月) D例会(担当:職業奉仕委員会)

4月15日(月) E例会

★4月22日(月)の外部卓話は垣見裕司様(東京紀尾井町RC)です。垣見様のプロフィールは下記ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.sbrain.co.jp/keyperson/K-6694.htm>

4月29日(月) 休会

■地区内外行事

3月17日 地区チーム研修セミナー(八戸)

5月12日 地区協議会(八戸)

5月17-19日 ロータリー世界平和フォーラム(広島)

10月5-6日 地区大会(八戸市)